日本遺族通信
令和8年9月15日
第909号
一般財団法人日本遺族会
〒102-0074東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話　03－3261－5521
振替　00160-6-25389
編集発行人　重井　敦
毎月1回15日発行
定価　1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

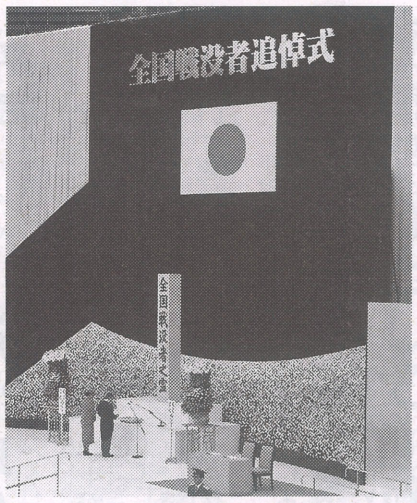
終戦81年

全国戦没者追悼式

〝戦争の記憶〟次世代へ

81回目の終戦記念日を迎えた8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ挙行された。陛下はおことばで戦争の記憶の継承について触れられ、「戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ」と述べられた。全国47都道府県遺族代表約4200人が参列し、戦争の犠牲者の冥福を祈り、平和への誓いを新たにした。

全国戦没者追悼式が15日、東京都千代田区の日本武道館で挙行された。式典には天皇皇后両陛下がご臨席になり、内閣総理大臣、三権の長、国務大臣、各政党代表、地方自治体、経済界など各界の要人に加え、水落敏栄日本遺族会会長ら、総勢約4200人が参列した。会場では戦争犠牲者に対し、参列者全員が黙祷を捧げた。



おことばを述べられる天皇陛下＝8月15日、日本武道館で

式辞で高市早苗総理は、「今日の我が国の平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と苦難の歴史の上に築かれたものであることを、私たちは決して忘れません」と述べ、戦没者への追悼の意を表した。さらに、「未だ帰還を果たされていない多くのご遺骨のことも忘れません」と語り、遺骨収集事業の重要性を強調した。

天皇陛下はおことば（全文別掲）で、「戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います」と述べられた。

天皇陛下おことば

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦においてかけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来81年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

追悼の辞

本日ここに、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、各界代表をはじめ、全国各地から遺族の代表が集い、全国戦没者追悼式が厳粛に執り行われるに当たり、戦没者遺族を代表し、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

先の大戦が終わりを告げてから早くも81年を迎えました。

昭和17年2月、生まれて1週間目の私を残し、父は出征され20年5月32歳で、フィリピン・ルソン島で戦死されました。

私も32歳の時に父の事が知りたくて、遺骨収集派遣団に参加致しました。当時は数多くのご遺骨が収集できましたが、しかし、今も海外では戦没されたご遺骨の半数以上が眠っておられ、一日も早くのご帰国を願うばかりです。

わが町は、20年7月の2回目の空襲の際、原爆投下訓練として、長崎県に落とされた原爆と同型の1トン爆弾が落とされました。4回目の空襲では、母親に布団をかぶり、おんぶされ郊外に逃げ、布団の間から空が花火のように見えた記憶が鮮明に思い出されます。市内中心部がほとんど焼失し、翌朝帰って来た時には、わが家もその空襲で全焼しておりました。その後の祖母や母の苦労は大変だったと思います。家庭を守り私を何不自由なく育ててくれた、祖母や母には感謝しかありません。

平和が長く続き、戦争は過去の事と忘れつつある今日、いまだ世界各地では多くの紛争が続いており、私たちのような犠牲者が後を絶ちません。一日でも早く世界の平和が訪れることを願うばかりです。

私たち遺族は、戦争の悲惨さや残された家族の苦労を、身をもって知っております。

また今日の平和が、国の礎となられた、ご英霊皆さまの尊い犠牲のもとにあることを忘れてはなりません。この事を次の世代へと語り継ぐことこそがわれわれに課せられた使命です。

本日は、多くのご来賓の参列のもと、このように厳かに追悼式を挙行していただき、遺族を代表して心から感謝申し上げます。

結びに、ご英霊のご冥福と、ご参列の皆さまのご多幸を祈念申し上げ、追悼の言葉といたします。

令和8年8月15日

全国戦没者遺族代表　金森武士

千葉豪雨はじめ全国各地での集中豪雨被害にあわれた皆様に謹んでお見舞い申し上げます

日本遺族会

熊本県へ見舞金

全国から寄付金募る

7月28日、熊本県を震源とする最大震度7の地震により甚大な被害がもたらされ、今なお、多くの被災者が避難生活を余儀なくされている。

8月3日、本会は各都道府県支部から寄付金を募り、熊本県遺族連合会へ見舞金を贈ることを決定した。8月10日、水落会長は熊本県遺族連合会を訪問し、田中正宣副理事長に見舞金を手渡した。

田中熊本県遺族連合会副理事長に見舞金を手渡す水落会長＝8月10日、熊本県で

支部長交代

京都、新潟

京都府、新潟県で役員改選が行なわれ、新会長が就任した。

▼京都府遺族会
吉里　年和氏
（4月1日付）

▼新潟県連合遺族会
金井　勲氏
（5月26日付）

声なき声

20年近く前にパプアニューギニアのニューギニア島でご遺骨の情報を求めてセピック河流域の村々をボートで巡った。同国で父を亡くされた遺児と二人での調査だった。電気も水道もない自給自足の村の生活は素朴そのものだったが、初めて出会う日本人を住民は笑顔で迎え入れてくれた▼気になったのは、誰もが刃渡り50センチぐらいの蛮刀を手にしていたことだ。初めは戦闘的な印象を受け少し恐怖を感じたが、全くの杞憂だった。住民にとって蛮刀は生活に欠かせない道具の一つだということがすぐに分かったからだ▼彼らは蛮刀を使って、ジャングルに分け入る時には先頭を歩き障害になる草木を刈ってくれた。喉が渇いたと思えば椰子の木によじ登り実を切り落として飲ませてくれた。急な斜面を上るために枝を切って杖をしつらえてくれた▼それはこちらがお願いしたわけではなく、自分がそうしたいから、そうするという忖度なしの行為だった。初めて感じる遠慮のない「剝きだしの優しさ」だった▼別れの日に、親しくなった現地案内人から、木の板に自ら手彫りしたストーリーボードを渡された。部族の生活を彫った伝統的なレリーフで、「スモールギフトだよ」と言われ受け取ったボードはずっしり重く、友情の証だという剝きだしの気持ちを感じとった。（S）

令和九年　靖國暦

靖國神社では毎年『靖國暦』を頒布しています。

本暦は、昭和二十三年から発行しているもので、嘉永六年から明治・大正・昭和の「御祭神ゆかりの主な出来事」を月毎に掲載しております。

座右に置かれて、日々ご活用戴きたく存じます。

好評頒布中

令和九年
靖國暦

●体裁：B6判　●頁数：四十八頁
●編集発行：靖國神社社務所

主な内容
○靖國神社の由緒　○人生儀礼の説明
○靖國神社の祭事暦　○手水・玉串拝礼の作法
○家庭のみたままつり　○全国の護國神社一覧
○年中行事と節気　○年齢早見表

頒布価格
一部三〇〇円（送料一四〇円）
※三〇〇部以上取りまとめの場合は割引となります。
※二部以上の送料はお問い合わせ下さい。

お申し込み方法
「はがき」または「FAX」にて部数・郵便番号・住所・氏名・電話番号をご記入の上、お申し込み下さい。
※暦と同封の払込取扱票にてご送金下さい。

お問い合わせ・お申し込み
靖國神社社務所　祭儀課
〒102-8246　東京都千代田区九段北　三－一－一
電話：03（3261）8326（代表）
FAX：03（3261）8320（直通）

平和の語り部
定期講話会

硫黄島戦没者の孫が講話

遺骨収集体験から記憶継承

戦争体験者の遺族と次世代・学生が共に記憶の伝承に取組む本部主催第18回定期講話会。7月に続きテーマは「家族」。祖父の慰霊から遺骨収集に参画、多くの出会いを通した記憶継承への思いを講話。遺児、次世代、学生等が集い、記憶継承の方途について意見交換。島根県から8名の体験者、次世代が参加した講話会を伝えたい。

8月8日の第18回定期講話会テーマは「次世代の遺骨収集体験から考える記憶継承」。初めに遺骨収集事業の拡大を求め、昭和47年本会青年部（当時、遺児）代表がサイパンで行った遺骨収集の秘蔵映像を視聴。密林、海岸沿いの岸壁の洞窟に雑然と残る多くのご遺骨の映像に涙する参加者も。

次に神奈川県遺族会青年部有泉圭吾氏による講話。幼少期から祖父の戦没地は硫黄島と聞いており、祖母、父は硫黄島慰霊巡拝に参加していた。小学生の頃祖母が他界。三男である父は祖父の話はしてくれなかったが祖父の写真を保管していた。

戦後60年頃、漠然とした硫黄島での慰霊に思いが募り参加した靖国神社のシンポジウムで本会を紹介され、平成23年念願だった同島慰霊巡拝（本会主催）に参加。この時同島遺骨収集に長年協力されていた遺児の方々と出会い、初参加の自身の思いに寄添い、遺骨収集への参加を後押し。

翌平成24年より遺骨収集に参画。以来47回を重ねた。これまで最も印象深かったご遺骨は、軍服姿で腰には軍刀、手にはピストル、壕の中で岩を背にもたれかかるような姿。たしかに戦闘があったこと、苦しい最期を目の当たりにしたという。

また今年6月末からの遺骨収集の写真を映写し、西大佐の戦車部隊と推測されるドラム缶、コインが発見された183壕の説明がなされた。

時間を惜しむように懸命に遺骨収集に取組む戦没者遺児の様子「ひと柱でも多く」「お父さん、戦友を祖国へ」は、言葉、その存在に重みがあると敬意を表し、八十路を越えた遺児の思いを次世代、まずは家族が引き継ごうと呼びかけた。その上で、体験が必要と訴え、慰霊巡拝に参加した姉を紹介。「弟に誘われ巡拝に参加し、祖父の慰霊を担う気持ちになった」と語り、地元での遺族会活動の大切さも示唆。

座談会の意見。体験者から聞いた思いを伝承したい。参加することに大きな意義（学生）。傷痍軍人だった父は弾丸が貫通した傷跡を見せて話していた。遺児から引き継ぎ、感想文を見て内容を模索（次世代）。戦後80年、時の経過は残酷。東京都でありながら未だ多くがそのまま。追悼式に次世代を巻き込む（体験者）。

次回は9月12日。次々回10月10日は体験者の遺骨収集体験を通した学校講話を伝える。

弟の誘いを受け参加した硫黄島墓参から遺族会活動に参画したと話す姉の有泉紀子氏
＝8月8日、九段会館テラスで

座談会で遺児の遺骨収集の体験に聞き入る次世代、学生＝8月8日、九段会館テラスで

令和9年度概算要求

平和の語り部に2・8億計上

8月31日、財務省は来年度予算案の編成に向け、各省庁からの概算要求を締め切った。

一般会計の要求総額は143兆円超に達する見通しで、昨年度要求額（122兆4454億円）を大幅に上回り、4年連続で過去最大を更新する。

そうした中で、本会の最重点要望事項である「平和の語り部」では、次世代育成費の拡充と国際親善交流の充実を要望しており、2・8億円が計上された。令和8年度予算の大幅増額に続き、約2千万円の増額となる。

この他、遺骨収集事業等の推進、国内外の民間建立慰霊碑の移設、戦没者の遺留品返還事業等も本会の要望通り増額計上された。

終戦の日
靖国神社

みんなで参拝は123人

自民三役揃って参拝

終戦の日の8月15日、超党派の国会議員で構成する「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」は、自由民主党、日本維新の会などに所属する衆参両院の国会議員123人（本人89人、代理34人）が靖国神社を参拝した。閣僚では、小野田紀美経済安全保障担当大臣のほか、副大臣4人、政務官4人が参列した。

参拝後の記者会見で、逢沢一郎会長は「戦争の歴史や記憶が風化しないよう、各段の努力をする必要がある」と述べた。また、日本遺族会が中心となって進める平和の語り部事業について「国政の場からもしっかり支えていきたい」との考えを示した。

同日、自民党四役のうち、鈴木俊一幹事長、有村治子総務会長、西村康稔選挙対策委員長の三役が参拝。小林鷹之政務調査会長は、地元千葉県での豪雨被害対応を優先し、翌16日に参拝した。高市早苗自民党総裁は参拝を見送ったが、鈴木幹事長を通じて玉串料を奉納した。

このほか、小泉進次郎防衛大臣、黄川田仁志沖縄・北方対策担当大臣、城内実経済財政担当大臣が個別に参拝した。

昨年8月同会の参拝者数が発足以来初めて100人を下回り、今回は86人（本人52人、代理34人）にとどまった。

他方、今年2月の総選挙で自民党が大勝したことを受け、各支部会長、青年部長の拡大一心会の議員が新人議員の加入を個別に依頼し、大幅に会員数が増えたことが分かった。

本会は今後も本部・支部が連携し、国会議員の参拝促進に向けた陳情活動を継続する方針である。

みんなで靖国参拝 衆参国会議員

参拝した89人の衆・参議員は次のとおり。

（党派別、敬称略）

議員本人

▼衆議院

【自由民主党】逢沢一郎、青山繁晴、石井拓、石川昭政、石原正敬、上原正裕、上野宏史、衛藤博昭、大野敬太郎、尾花瑛仁、金澤結衣、河野正美、鹿嶋祐介、門寛子、加藤勝信、川松真一朗、**栗原渉**、黒崎祐一、小寺裕雄、斉藤りえ、柴山昌彦、新谷正義、鈴木英敬、高鳥修一、田村憲久、高木啓、高見康裕、田中良生、辻清人、とかしきなおみ、長澤興祐、中谷元、**中野英幸**、長野春信、仁木博文、**西山尚利**、根本幸典、長谷川淳二、福原淳嗣、古川直季、星野剛士、細田健一、三ツ林裕巳、武藤容治、簗和生、保岡宏武、山口俊一、山口晋、山下貴司、山田美樹、若林健太、渡辺博道

【日本維新の会】東徹、一谷勇一郎、奥下剛光、美延映夫、三木圭恵、横田光弘

【国民民主党】高沢一基、西岡義高、村岡敏英

【参政党】石川勝、工藤聖子、鈴木美香、吉川里奈

【チームみらい】宇佐美登

【無所属】河村たかし

▼参議院

【自由民主党】磯﨑仁彦、臼井正一、小野田紀美、**加藤明良**、北村経夫、見坂茂範、鈴木宗男、橋本聖子、**松村祥史**、宮本和宏、森まさこ、山谷えり子、山本啓介、山本佐知子

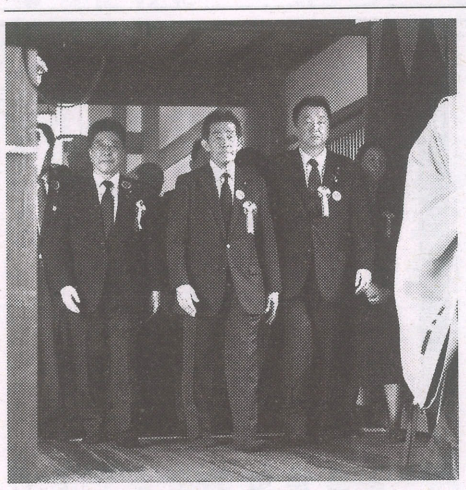
【日本維新の会】青島健太、石平、高木かおり

【参政党】安達悠司、櫻井祥子、初鹿野裕樹、松田学

【無所属】齊藤健一郎

（太字は拡大一心会）

昇殿参拝後、記者団に応じる鈴木幹事長ら自民党三役＝8月15日、靖国神社で



逢沢会長を先頭に参拝に進む「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」＝8月15日、靖国神社で

終戦の日
靖国神社

51回全国戦歿者慰霊大祭

英霊にこたえる会が斎行

終戦から81年目を迎えた8月15日、英霊にこたえる会主催の「第51回全国戦歿者慰霊大祭」が午前9時から靖国神社で斎行された。

大祭には、古庄幸一会長をはじめ、水落敏栄特別顧問（本会会長）、副会長、自衛隊の統合・陸・海・空各幕僚長（代理）、中央参加団体、県本部会長、特別会員、佐藤正久前参議院議員ら約200人が参列した。式は、国歌斉唱、修祓、献饌、祝詞奏上、祭文奏上、玉串奉奠と厳かに進められた。

本大祭にあたり、岡山県笠岡市遺族連合会から奉納された「千羽鶴」が靖国神社に献納された。

本殿に向かい国歌斉唱する参列者
＝8月15日、靖国神社で

語り部事業

追悼式における次世代継承

学生、親子参加型の取組み

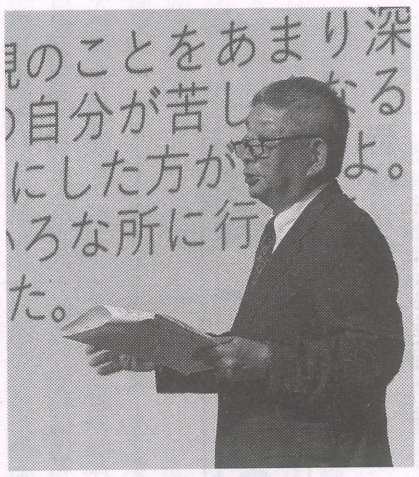
終戦80年の節目となった昨年は自治体の追悼式における語り部事業の活用を依頼し、式中の講話をはじめ、式後2部を設ける、あるいは式前後の平和祈念週間の中で、講話や座談会、資料展示、朗読劇など各地域工夫を凝らして実施。教育関係、援護担当者はもとより知事等、首長の視察の機会を得た。節目を越え各地域で展開された体験者・次世代・学生が協力した多様な取組を紹介したい。

東京都北区8月4日

平和都市宣言40周年を記念した平和祈念週間に戦争体験講話として、東京都遺族連合会岡野利幸氏（日の出町遺族会会長）が講話。父と叔父3人が戦死。父の部隊の慰霊祭で出会った部隊の人に「お父さんのことを深く知ろうとするほど、これからの自分が苦しくなるよ」と言われたことに、逆に戦没地をこの目でみたいとの思いが募り、比島、硫黄島、サイパン島等で慰霊。沖縄平和祈願慰霊大行進で先導した女性遺児の「中学生の時、放課後に米軍払い下げの南京袋を手に横一列で骨を拾い集めさせられた」との言葉に涙で足が止まったと伝え、海外の記念碑、祈念館の視察を勧め、平和が永遠に続くために過去の悲惨な出来事を忘れないでと訴えた。

当日は会場の北とぴあで献花やすいとん試食、パネル展示等も開催された。

この他、都と都遺族会との協働で戦没者霊苑内遺品展示室見学ツアー、遺族の語り部講話、追悼式では朗読劇の上演などに中高生が参列した。



北区平和祈念週間で平和の語り部として講話を披露した岡野利幸氏＝8月4日、北区北とぴあで

神奈川県横浜市8月5日

横浜市教育委員会主催子供向け夏休み体験学習プログラムの一環として「聞いて・見て・考える戦争と平和」がかながわ平和祈念館で開催された。午前、午後親子20組が参加。青年部により朗読劇「出征兵士を見送る家族の物語」を上演。情感のこもったセリフ、関連したスライド映写に参加者は真剣な眼差し。上演後、森本浩吉会長は自身の父の出征時の写真を掲げ、「地域で見送った。私も母のお腹にいた妹も父との思い出はない」と語り、戦後の労苦を伝え、あと数日終戦が早かったら多くの命が救えた。戦争は多くの人生を狂わせると訴えた。参加者は遺品展示見学、質問タイム後、ワークシートを書いて、学んだことを発表した。

神奈川県8月16日

昭和100年記念平和の語り部講演会を開催。硫黄島での遺骨収集の体験を相田洋子氏（横浜市緑区遺族会）が講話。戦後母が再婚。50歳を過ぎて母に父の話を聞いたことをきっかけに硫黄島墓参へ。その後平成23年に遺骨収集、7回渡島した。高温の壕での収骨、遺骨が砂と化す様子に涙、米3粒が残された茶碗を持ち帰った。貴重な体験を学生に伝えたいと読書ボランティアをしていた学校の校長先生に要望。2年掛かりで実施にこぎつけ、以来県内の学校で講話。年一回でも戦争と平和について考えてほしい」と訴えた。

その後、青年部、県庁職員による朗読劇を上演。参加者からは「自分がどれだけ恵まれているか分かった」「命を大切にしたい」「戦争体験者が少なくなった中で貴重」「等々寄せられた。14日から20日まで県庁との共催で「戦没者追悼と慰霊パネル展」が開催された。

昭和100年記念平和の語り部講演会で硫黄島での遺骨収集の体験を披露する相田洋子氏＝8月16日、横浜市かながわ平和祈念館で

平和学習として注目

夏休み向け語り部講話

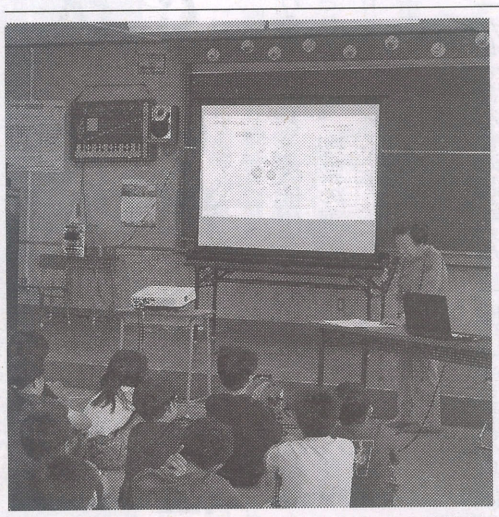
遺族会の「平和の語り部事業」は、学校等、児童・生徒向けの実施を中心に据えている。昨年多くの自治体、学校で平和を考える企画が開催され、本事業が利用されたことは既報の通りである。

今年度上半期、1日の実施数が最多となった全国的な平和学習の登校日（8月6日）の様子を紹介したい。

○福岡県4校

久留米市立高牟礼中学校、八女市立立花中学校、大牟田市立手鎌小学校、行橋市立行橋南小学校で実施。特筆すべきは大牟田市。

市内で2校が統合され新設される中学校の名称「桜花」が特攻を連想させるとして昨年末から報道されていた。同市遺族連合会は市教育長に校名に関する議論を通じて平和学習の機会とすべく語り部講話に協力したい旨を申し入れており実施の運びに。7月15日に行われた明治小学校での語り部が報道された。8月15日には県戦没者追悼式と同会場で例年通り語り部の会が実施され大きく報道された。



手鎌小学校で講話する福田静子大牟田市遺族連合会会長＝8月6日、大牟田市で

○大分県5校

国東市立安岐中学校、同国東小学校、由布市立挾間中学校、中津市立耶馬渓中学校、日田市立五馬中学校で実施。600人規模の全校生徒から10名規模の小規模校まで、地域の空襲等の歴史、遺族の体験を講話。

○広島県1校

世羅町立世羅中学校がせら文化センターで実施。全校生徒が参加。依頼に沿って地域の歴史、戦争に翻弄された遺族の体験を通して生徒自身の生き方を考えるきっかけにしてほしいとの思いを込めた講話がなされた。

○高知県1校

北川村立小学校が実施。同村出身の戦没者166名の遺影が掲げられた遺族会館で、村遺族会長が母や自身の戦争体験、当時の厳しい暮らしの様子等について講話し、平和の尊さを伝えた。

○長野県1カ所

学内塾等学習支援事業を行う株式会社学びの森主催の志賀高原夏合宿において次世代を担う県青年部長が中高生119名に向け講話。

民間団体からの依頼の広がりを見据え、夏休みの学童クラブでの講話を集中的に展開した三重県をあわせて紹介したい。

○三重県8カ所

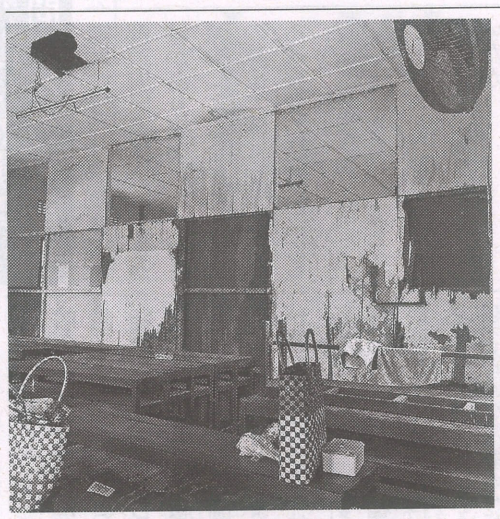
7月27日上野北放課後クラブ（伊賀市）、7月29日放課後児童クラブまりん（鈴鹿市）、8月3日飯南放課後児童クラブ（松坂市）、8月12日川崎小学校区放課後児童クラブあおぞら（亀山市）、8月17日桔梗が丘小学校区放課後児童クラブ（名張市）他3か所。それぞれ体験者と次世代が遺族の記憶と地域の歴史を伝えた。

終戦から81年となった今年、6月末時点で児童・生徒向け講話が約240回、昨年同時期（約180回）を上回るペースで実施されている。各地域の努力に敬意を表したい。今後も多くの依頼に応えられるよう各地域の模索は続けられる。

大規模修繕は困難に

ミャンマー小学校修繕募金

日本遺族会は、平成11年度から3カ年計画で、ミャンマーに建設、寄贈した小学校3校の老朽化が進んでいることから、修繕募金を集めている。現在約400万円の募金が寄せられている。



教室内の壁や天井が剝がれ落ちている＝令和8年3月、北オカラッパ第14小学校

今年3月のミャンマー慰霊友好親善訪問団で、北オカラッパ第14小学校とカドウィンチャン小学校の2校を訪問した際に、校舎の状態を確認したところ、天井や壁が剝がれ落ち、窓ガラスも割れるなど、使用不可能な教室も多く、大規模な修繕が必要とされている。

しかしながら、世界的な物価高や軍事政権下にあることが影響して、ミャンマー国内の資材、人件費が高騰しており、現地の業者による修繕費用の見積額が、集まった募金を大幅に上回っている状況にある。

本会は、学校側から具体的な要望を聞き取り、在ミャンマー日本国大使館と協議し、部分的な修繕も含めてあらゆる可能性を踏まえ、修繕募金の適切な使途について慎重に検討する。

ミャンマー（旧ビルマ）小学校修繕募金のお願い

日本遺族会ではミャンマー（旧ビルマ）に建設贈呈した小学校の修繕費用の寄付を募っています。

本会は平成11年度から3年計画で、北オカラッパ第14小学校（ヤンゴン郊外）、カドウィンチャン小学校（ペグー）、バンドゥータズー小学校（アキャブ）の3校を竣工、贈呈しましたが、建設から20数年が経過し、校舎等の老朽化が進んでいます。

2021年の軍事クーデター以降、ミャンマー国内の政情が不安定なため渡航が困難とされているなか、まずは治安が安定していて、入域が可能な北オカラッパ第14小学校とカドウィンチャン小学校の2校の修繕等を予定しております。

学校側の要望を聞き取り、現状を把握したうえで、壊れた校舎の修復など募った寄付金の使途、今後の支援について慎重に検討します。

皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

銀行名：三井住友銀行 神田支店
口座番号：当座預金 1015126
口座名：一般財団法人　日本遺族会＝ザイ）ニホンイゾクカイ

本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

賛同者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）

木森啓子、金井佳治、山上知江、平塚裕輝、清水良祐、中根英夫、木下路也、村田正明、立原智子、橋爪清、重富令子、皆川潔、コガトシロウ（以上、7月29日から8月末日まで）

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施しているさまざまな遺族会活動に利用させていただいています。

平和の語り部

体験者から次世代へ繋ぐ
岡山、佐賀で語り部大会開催

遺族会の語り部は遺族から直に体験を聞ける貴重性と、次世代が共に活動し、学生と共に考え、多世代間の学びに繋がる点が評価されている。喫緊の課題は語り部育成と内容の充実となる。自治体・報道双方への広報によりその方向性を示した先進2県による「平和の語り部大会」を紹介したい。両大会は異例の事前告知、即日報道され、大きな反響を呼んだ。

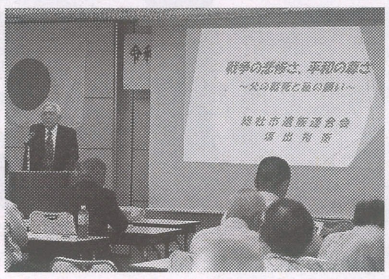
○7月30日（岡山県）

県援護班、学校関係者を招き、昨年度に続いて大会を開催。冒頭三宅禎浩理事長は昭和22年の結成以来繋がれた組織を語り部事業を通して次世代へ繋ごうと呼びかけた。

一部は総社市遺族連合会役員3名による講話。塩出裕衛会長代行は同会が市に要望し建設された戦没者芳名碑を紹介。戦後働き続けた母の様子を伝え、平和は誰かに守ってもらうのではなく自分たちで守るものと訴えた。

横田秀夫副会長は母に背負われ避難した空襲、戦中戦後の食糧難の体験を講話。3mにおよぶ父の最期を伝える上官からの手紙、遺品のゲートルを持参。持てる記憶を次世代へ伝えようと訴えた。

浅沼艶子女性部長は、白木の箱に紙切れ一枚、父の帰還を信じ毎日陰膳を供え、お宮参りを続けた母を伝えた。比島での慰霊巡拝、遺族会活動が縁で結婚した夫と義父の慰霊、苦労を重ねた母二人への感謝を伝え、記憶を語り継ぐことは遺族の使命と語った。



戦没者名を刻む慰霊芳名碑を伝える塩出裕衛総社市遺族連合会会長代行＝7月30日、岡山市内で

二部では本部が県内の取組を紹介。県内17校での講話、行政の支援を得て次世代と共にする市町村遺族会の活動、増本信行事務局長による巧みな広報戦略と語り部育成が継続的な報道に繋がっていると示唆。大会は一般参加者も来場した。

○8月11日（佐賀県）

昨年県遺族会の要望により10年前倒しで挙行された県戦没者追悼式を契機に次世代が平和の尊さに触れる機会を創出し、学びや想いを発信する「平和への想いを未来につなぐ事業」（5カ年）が佐賀県事業として創設された。次世代との活動を意識し昨年に続き清和高校放送部による司会で進行。冒頭5カ年事業参加中高校生6人による発表。県内戦跡視察、体験者の講話、沖縄視察、高校生との交流から知る機会の大切さ、声をあげる重要性、直に聞ける最後の世代の使命として「戦争を知ることは未来を守ること」とまとめた。

清和高校放送部副部長が昨年本大会の司会を務めたことを契機に制作されたNHK放送コンテスト応募作品を視聴。長崎市の被爆者、高校生との交流を通し永続的な平和活動をテーマに。祖父から繋がった命、出来ることを重ねる決意を語った。

昨年に続き山口祥義知事はじめ3市3町の首長、教育長、福祉部長、県会議員が参加。山口知事は「本大会がどこまで繋げられるかしっかり見守りたい」と語り、学生の発表に「思いが繋がった」と高く評価。西田富子会長は「遺族の思いを受け取ってもらえたと安堵。遺族の使命として伝え、繋げたい」と語った。

次に深川善次画伯による絵画「悲話・松葉ボタン」にまつわる特攻隊と少女との実話を基にした朗読劇（山口英明事務局長創作）。祖母を西田会長と清和高校放送部員が熱演。拍手に包まれた。

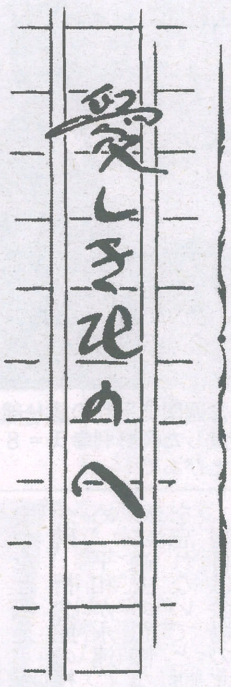
次に山下一夫副会長の講話。満州で現地応集され戦没した父、母と大連からの引き揚げ体験。高校の校長を歴任。豊富な経験から中高校での講話を一手に受け、語り部事業をけん引する。「二度と若者を戦場に送らないために」語り部を推進する決意を語った。

次世代堀田雄二氏は中学校社会科教諭の経験を活かし語り部事業に応募。被爆者継承、県内の特攻隊の講話を披露。

荒田博記副会長は次世代として「伝える、繋ぐ」を目標に活動を重ねる決意を伝え閉幕。会場301席は一般客含め満席。

新作朗読劇「まつばぼたん」を遺児と高校生で上演＝8月11日、佐賀市内で

皆様元気で



海軍軍属（船員）　西川　幸雄

昭和二十年六月二十七日
東支那海にて戦死
京都府京都市上京区出身　十八歳

拝啓　昨日木浦に着きました。嫌な感じのするバラック計りみたいな街です。途中何の障害もなく海は穏やかでした。海水は美しいし、天気は上々、船は一路走りました。（中略）

お父さん、体の調子は如何ですか。余り無理をせずに自重して下さい。陸に居たら暑くて暮らし難いでせうね。お母さん、お祖母さんも元気でせうね。皆さんの元気な様子が眼前に出て来ますよ。

正己君、学校の様子はどうだい。しつかり頑張るのだよ。（中略）克ちやんはどうしてる。相変らず強情を張つて、正己兄ちやんと喧嘩ばかりしてゐるかい。（中略）京ちやん、お父さんやお母さん、お祖母さんの云はれる事を良く聞いてしつかり家の手傳をしてゐるでせうね。決して口答へ等をするんぢやありませんよ。

今日はこれ位で筆を擱きます。皆様元気でお暮し下さい。では又。

小夜奈良

遠く朝鮮、木浦にて

幸雄

皆様

【令和八年九月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ

「特別弔慰金増額に伴う賛助金のお願い」に対する質問書への回答

8月4日、本会に寄せられた匿名の質問に対する本会の回答を説明したい。

一、経緯

(1)賛助金について（お願い）文書（令和8年5月30日付支部遺族会長名）令和8年7月22日、会員宅に標題の文書が届いた。内容は特弔支給法継続に伴い増額分を賛助金として寄付の協力をお願いするもの。理由として特弔継続には、日遺並びに各都道府県遺族会の働きかけがあり実現した。会員減少による会費や寄付金の減少で運営が困難となる遺族会の活動を支えるため、賛助金として寄付の協力をお願いするもの。

二、質問と本会の回答

問①(1)の文書を把握していたか

答①該当市町村支部遺族会から発送されたことは把握しておりません。

問②組織決定されたものか、都道府県遺族会への伝達の有無

答②令和8年度活動方針・事業計画において、組織の拡充強化として、青年部組織育成を念頭に置いて、賛助金の協力のお願いの提案をしましたが強制性はございません。令和8年度活動方針・事業計画は、本会の理事会・評議員会で承認を得ているものです。

問③会員から集めた寄付金の使途について

答③本会は寄付金の使途を青年部育成のためと提案しておりますが、各支部で使途を決定しているため把握しておりません。

問④本文書の趣旨の確認（以下は原文のママ）

「私の理解では、「貴会及び都道府県遺族会の政府への働きかけにより、特別弔慰金の額面が増額になったので増額した部分5千円は遺族会が受け取るべきだ」と解釈しておりますが、これでよろしいでしょうか。」

答④特弔の増額分を遺族会が受け取るべきだとは思っておりません。本会が願っているのは遺族会の理念が次世代へ継承されることであり、すなわち、先の大戦で国策により亡くなられた戦没者の犠牲を忘れさせないよう、記憶を継承することです。

○本会の回答まとめ

今回、質問書を国、本会に送られたことは特弔を大切に思っておられる、ひいては遺族会の活動を大切に思われていることからと拝察いたします。

偏に、賛助金協力の提案の趣旨に対する本会の説明不足と思われます。心よりお詫び申し上げます。今後は本部、支部とも説明を尽くすよう機会を作り、理解が得られるよう努力いたします。

本会は創設以来、英霊の顕彰と戦没者遺族の福祉向上を願い活動を重ねて参りました。遺族のための本部であり、ひたすら恒久平和を願い、寄与する団体として活動しております。

本部はもとより、支部組織、事務局は、今や戦後生まれの遺族や、戦没者にかかわりのない次世代が大半を担っておりますが、遺族会結成以来の理念を理解し、遺族を第一に業務にあたっておりますので、どうぞ、本会の活動については、切にご理解いただきたくお願い申し上げます。

匿名でいただきましたため、個人へお返しすることが叶わず、全国への通知となりますことご了承ください。

間もなく81回目の終戦の日を迎えますが、未来を担う子供たちが、たくさんの夢や希望を持ち、努力することの出来る平和な社会が維持できるよう、活動を続けてまいりますので、どうぞご一緒に活動いただきたく、お願い申し上げます。

※匿名のため8月7日全都道府県支部へ通知し市町村支部への共有を依頼。本紙での掲載とした。

九段短歌

作品をお寄せください。

選者　村田　信昌

軍服と革靴の音うっすらと胡蝶の夢か薄れずいまも
青森県　田中　恭子

アキャブ湾機の下青き波うねり父はここで赤き土になり
東京都　坂口　成子

妻子らと混沌の世を生きてます星宿の父の笑顔懐かし
山梨県　土屋　喜雄

終戦後一〇〇年経ったと言うまでは何とか生きたい戦没者の遺児
山梨県　三森　一雄

夕暮れにカナカナカナとひぐらしのわびしかりけり父を偲びつつ
大分県　安藤　幸枝

玉音を聞きしあの日のあの空は空しきまでに唯蒼かりき
佐賀県　松尾美津子

◇

熊本県を再び襲った大地震や短時間に大量の雨に襲われた千葉豪雨と自然災害が頻発しております。被害に遭われた方々には心からお見舞いを申し上げます。

さて「処暑」を過ぎたある日の夕刻、境内ではヒグラシの鳴く声が聞こえてきました。今月はそのような情景を詠まれたお歌がございました。お父様への想いと夏の終わりを感じさせる物悲しい響きが幼い日の頃の淡い記憶と共鳴されておられたのでしょうね。（選者）